



# 桜川市主要施策について

-ヤマザクラと市民の幸せが咲くまち 桜川を目指して-  
-人口減少対策や複合施設建設などの市の取り組み-

令和5年10月8日(日)

令和5年度 桜川市主要施策報告会





# ① さくらがわ人生応援プロジェクトについて

人口減少対策、定住の促進を目指し、「さくらがわ人生応援プロジェクト」として、4月1日から各種事業をスタートしています

## さくらがわ人生応援プロジェクト

さくらっこ出産子育て応援金  
(妊娠時5万円+出産時5万円)

合計最大 **266万3千円**  
※通勤支援を10年間受給した場合

+10万円

### 子育て3Step応援金

お祝い金  
**10万円**



誕生

お祝い金  
**10万円**



小学校入学

お祝い金  
**10万円**



中学校入学

通勤支援金  
年間最大  
**1万2千円**



就職

お祝い金  
**10万円**



結婚

助成金最大  
**200万円**



住宅取得

### 敬老祝金

77歳(喜寿) **3千円**  
80歳(傘寿) **5千円**  
88歳(米寿) **5千円**  
100歳(百寿) **3万円**



老後

その他にもこんなに応援します!

#### ランドセル贈呈

・小学校入学祝い品として贈呈。7色の中から選択。



#### 学校給食費免除

・第2子以降の児童生徒の学校給食費を免除。



#### 奨学金返済支援

・大学等の貸与型奨学金の返済の一部を支援。  
(最大50万円)

桜川市に移住すると更に  
**わくわく茨城生活実現事業** 東京23区在住者又は東京23区へ通勤する東京圏在住者で桜川市に転入し、就業・起業等に関する要件を満たす方に支援金を交付。  
例)4人家族(18歳未満の子ども2人):世帯100万円+子ども加算100万円/人×2人=300万円

#### 出会いサポート

・いばらき出会いサポートセンターへの入会登録費用を助成。

#### 支援金

世帯 **100万円**  
※18歳未満の子ども1人につき100万円の加算  
単身 **60万円**

#### 配食・見守り

・75歳以上の一人暮らし高齢者に週1回お弁当を配達し安否を確認。(R5 秋以降実施予定)

・75歳以上の一人暮らし高齢者に緊急通報機器を貸与。(緊急事態発生時の対応・健康相談・安否確認等)



# ① さくらがわ人生応援プロジェクトについて

- 若者支援として、通勤支援、奨学金返済支援、結婚お祝い金事業などを準備
- さらに子育て支援として、子育て3step応援金や多子世帯の経済的負担軽減のため学校給食を免除といったメニューを用意

## ●若者支援

事業名	内容
通勤支援事業	市内に居住し、40歳以下で片道50km以上市外に通勤する方に、 月額1,000円年間最大12,000円を補助
学びサポート事業 (奨学金返済支援)	令和4年4月以降に貸与型奨学金の返済を開始し、市内に1年以上継続して在住している方を対象に、貸与型奨学金の返済額のうち年10万円を助成限度とし、 最大で継続する5年間支援(最大50万円)
いばらき出会いサポートセンター利用促進事業	結婚を希望する方にいばらき出会いサポートセンターの入会登録費用11,000円を補助
結婚お祝い金事業	婚姻届提出時に年齢合計が80歳未満の夫婦に、新婚生活支援として 結婚お祝い金10万円を給付

## ●子育て支援

事業名	内容
子育て3Step 応援金	出産時・就学時・中学入学相当時のお祝い金として各10万円(合計30万円)を給付 (さくらっこ出産子育て応援金と合わせれば合計40万円)
新入学児童 ランドセル配付事業	小学校入学時にランドセルを無料配付
学校給食費免除事業	多子世帯の経済的負担軽減のため学校給食費を免除 ※18歳までの子供が2人以上いる家庭で、そのうち、最年長の子供から数えて2番目以降の子供が対象



# ① さくらがわ人生応援プロジェクトについて

- このほか、住宅支援や移住支援により、人口減少に歯止めをかけていきます
- また、高齢者支援も充実し、敬老祝い金、高齢者あんしん通報システムを充実するとともに、10月から配食サービスを開始

## ●住宅支援

事業名	内容
住宅取得助成金	18歳以上50歳以下の方で、令和5年4月1日以降に市内に住宅を取得(所有権保存登記)し定住する方に <b>最大200万円(基本30万円+各種加算金)</b> の助成金を交付

## ●高齢者支援

事業名	内容
敬老祝金	高齢者の長寿を祝福するため、 <b>お祝い金として77歳(喜寿)3千円、80歳(傘寿)5千円、88歳(米寿)5千円、100歳(百寿)および男女最高齢3万円</b> を贈呈
配食サービス事業	75歳以上のひとり暮らし高齢者に栄養バランスの取れた <b>お弁当を週2回配達し、利用者の安否を確認</b>
高齢者あんしん通報システム事業	75歳以上の <b>ひとり暮らし高齢者に緊急通報機器を貸与</b> (病気やけがなどの緊急事態発生時の対応、健康相談、安否確認など)

## ●移住支援

事業名	内容
わくわく茨城生活実現事業	東京23区に在住または東京圏から23区内へ通勤していた方が、桜川市へ移住した場合、 <b>単身60万円、世帯100万円(18歳未満の子ども1人につき100万円)</b> を支給(事前相談制、各種要件有り)
移住定住相談窓口開設	移住定住希望者向けの <b>庁外相談窓口を開設(令和5年度開設準備)</b>



# ① さくらがわ人生応援プロジェクトについて

- 「子育て3step応援金」(誕生、小学校、中学校各10万円)は、近隣市より手厚く、手続きもオンラインで、子育て世代に好評
- 手厚くした住宅支援補助も、現在、前年度の同時期を上回るペースで申請があり、好調な滑り出し。
- 4月にリニューアルした移住定住サイト「桜楽暮(さくらぐらし)」はアクセス数も増加し、問い合わせも増加傾向となっている。

## さくらがわ人生応援プロジェクト

さくらっこ出産子育て応援金  
(妊娠時5万円+出産時5万円)

+10万円

### 子育て3Step応援金

お祝い金 10万円    お祝い金 10万円    お祝い金 10万円



誕生



小学校入学



中学校入学

通勤支援金  
年間最大  
2万円



就職

お祝い金  
10万円



結婚

合計最大 266万3千円

※通勤支援を10年間受給した場合

助成金最大  
200万円



住宅取得

敬老祝金

77歳(喜寿) 3千円  
80歳(傘寿) 5千円  
88歳(米寿) 5千円  
100歳(百寿) 3万円



老後

桜川市 移住定住促進サイト

Language ▾

メニュー

さくらがわ sakuragawa

ニュース & トピックス

SLOW LIFE IN SAKURAGAWA

PROFILE  
桜川市ってどんなところ？

筑波山を初めとした山並みに囲まれ、市の中央には市名の由来となった桜川が流れています。

都心から程よい距離間、温暖で豊かな自然、手厚



# ① さくらがわ人生応援プロジェクトについて

- (仮称)上曽トンネルが貫通したことを受け、「貫通石」\*を出産予定の桜川市民に9月下旬から岩瀬庁舎健康推進課で配布。
- 市民と新たな市民の人生を応援。
- 今後は、市内の受験生にも配布を行う予定。



## 貫通石について

昔、神功皇后が、戦いの時に洞窟を掘って敵の背後から攻め込んで勝利を収め、その記念に貫通点の石を持ち帰り、自らのお産の時にその石を枕元においたところ、とても楽に男の子(応神天皇)を出産することができました。

以来、トンネル貫通点の石を安産の御守りにするならわしが始まったといわれています。

また、近年では受験生が「難関突破。初志貫徹」の意味から、合格祈願の守護石として重宝されています。

配布開始にあたり記者発表を実施。茨城新聞、東京新聞において記事が掲載された。



# ②健康で共生のまちづくりについて

桜川市の対応

## 「さくらがわ地域医療センター」

- ・ 筑西・桜川地域において2次救急医療までを完結できる医療提供体制を目指し、3病院を再編統合し、2病院での体制を構築した

### さくらがわ地域医療センターを整備した経緯

年度	主な出来事	内容
H16	新医師臨床研修制度の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方での医師不足・偏在が進んだ</li> <li>・ 医師派遣元である大学側が派遣先から引き上げることになり、当該地域の診療体制が縮小され、経営悪化</li> </ul>
H21	茨城県地域医療再生計画策定 ⇒新中核病院整備を位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師不足の地域にあって、医師が公立2病院（県西総合病院、筑西市民病院）に分散</li> <li>・ 低下した医療機能に対応できる病院を整備する</li> </ul>
H22	当該地域における医療提供体制あり方検討会議	新中核病院の病院建設場所の問題で合意形成が困難
H23	①県が公立病院の再編・ネットワーク化構想策定 ②東日本大震災発生 ③茨城県地域医療再生計画変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>①公立2病院の再編統合の検討について記載</li> <li>②筑西市民病院は病棟が使用不可となり、縮小</li> <li>③震災を踏まえた新中核病院の整備を記載</li> </ul>
H25	新中核病院建設基本的事項調整代表者会議	<b>新中核病院は筑西市が整備する、県西総合病院は存続することなどの基本的事項6項目について合意</b>
H26	国が公立2病院の再編統合に交付金等の活用できないと判断 ⇒新たに民間病院を含む3病院の再編統合について合意	公立病院の再編統合により県西総合病院が廃院することで、桜川市の医療機能が低下するため、新たに桜川市立病院を整備
H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新中核病院・桜川市立病院再編整備基本構想策定</li> <li>・ 新中核病院・桜川市立病院再編整備基本計画策定</li> </ul>	筑西桜川地域において、 <b>二次救急医療までを完結できる体制</b> を構築 桜川市立病院：経営形態は指定管理者制度方式が適当
H29	指定管理者を選定	医療法人隆仁会に決定
H30	さくらがわ地域医療センター開院	茨城県西部メディカルセンターも開院



## ②健康で共生のまちづくりについて

地域医療における役割

### 「さくらがわ地域医療センター」

- ・筑西・桜川地域において、「急性期中心の入院治療」、「2次救急や重症患者」を受け入れる西部メディカルセンターと「回復期・維持期中心の入院診療」、「1次救急や軽症患者」を受け入れるさくらがわ地域医療センターという機能・役割の分担をおこなっている。

## 筑西・桜川地域の救急体制を充実いたします

<b>初期救急 (1次救急)</b>	症状が軽く、基本的に外来での投薬、注射、処置などで対応できる患者さんが対象の医療機関。 担当： <b>さくらがわ地域医療センター</b> 、地域開業医やクリニックなど
<b>2次救急</b>	入院治療を必要としたり、早期の手術等を必要とする患者さんが対象の医療機関。 担当： <b>茨城県西部メディカルセンター</b> など
<b>3次救急</b>	2次救急医療機関では対応できない、生命の危機が切迫しているなど重篤な患者さんに高度な医療を提供する医療機関。 担当：救命救急センター、大学病院など



# ②健康で共生のまちづくりについて

## 現在の状況 「さくらがわ地域医療センター」

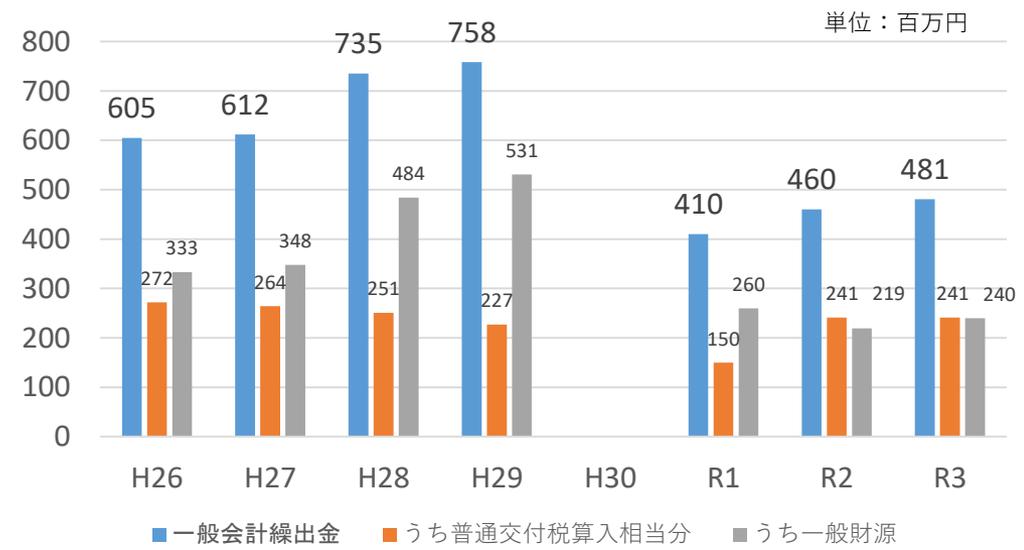
- 受診割合（外来・入院）は、市民の利用が80%を超えている※1
- 再編前後の一般会計繰出金は平均で約2億円減少※2
- 地域医療体制を確保するため経営強化プラン(R5.3)を策定

※1 さくらがわ地域医療センターの入院患者・外来患者数における市民の割合

年度	R2	R3
延べ入院患者数	34,363人	33,736人
うち桜川市民	27,928人 (81.3%)	27,239人 (80.7%)
延べ外来患者数	59,432人	66,500人
うち桜川市民	49,643人 (83.5%)	55,326人 (83.2%)

※1 さくらがわ地域医療センター経営強化プランより

※2 市の病院会計への繰出金等の推移



※H29までは県西総合病院への繰出金  
R1以降はさくらがわ地域医療センターへの繰出金



# ③ヤマザクラの保全について

## 「桜川市第2次総合計画」

【まちの将来像】 「ヤマザクラと市民の幸せが咲くまち 桜川」

「ヤマザクラ55万本の里 桜川」



高峯



磯部桜川公園



# ③ヤマザクラの保全について

これまでの経緯

## 「桜川市ヤマザクラ保全活用計画」の策定

2019年2月に「桜川市ヤマザクラ保全活用計画」を策定。  
市の最上位計画である「桜川市第2次総合計画」のもと、2028年までの10年間、ヤマザクラの里の再生に関する基本理念、基本方針、実施計画を示した。

### 【基本理念】

日本を代表するヤマザクラの里の再生  
～地域資源である里山やヤマザクラを再生し、その価値を高め、広く伝えることで、「日本一のヤマザクラの里」の景観と自然環境を創出する～

### 【基本方針】

- I. 名勝・天然記念物のサクラの保全
- II. 里山の保全
- III. 人材の育成

以上の3つを柱に、ヤマザクラと自然環境の保全を通して地域の課題解決につなげ、持続可能な桜川の暮らしを実現する

**桜川市  
ヤマザクラ保全活用計画  
～概要版～**

日本を代表するヤマザクラの里の再生

桜川市ヤマザクラ保全活用計画策定委員会  
平成31年2月26日 策定

実行 平成31年3月  
桜川市環境課ヤマザクラ室  
〒500-1250 桜川市御所町1023番地  
TEL: 0296(8)5111



# ③ヤマザクラの保全について

## I. 名勝・天然記念物のサクラの保全

### 課題

名勝指定から100年経過しており、樹勢の衰えは顕著  
→後継樹の育成・植樹をしていきながら、名勝の名に恥じない景観の保全に努める

### 桜川市の対応

#### 【磯部桜川公園樹木地土壌調査業務】

衰退する名勝指定地内の樹木周辺の土壌を改良し、樹勢の回復に取り組む

→令和元年より事業を開始し、天然記念物に指定されている山桜の土壌改良を4年間で計52本実施した



# ③ヤマザクラの保全について

## I. 名勝・天然記念物のサクラの保全

桜川市の対応

### 【磯部桜川公園樹木地土壤調査業務】



【土壤改良作業のようす①↑】  
直径6cm深さ60cmの穴を掘り、  
有機肥料などを混合し土を埋め戻す

【土壤改良作業のようす②↓】  
幅50cm深さ50cm長さ約1mの穴を掘り、  
有機肥料などを混合し土を埋め戻す





# ③ヤマザクラの保全について

## Ⅱ.里山の保全

### 課題

自生するヤマザクラを保全していくためには、里山全体の環境整備が不可欠

→各保全団体と連携を図りながら、市内の里山全体の環境を整備していくとともに、地域住民の里山保全への関心を高めていくよう努める

### 桜川市の対応

#### 【桜の里づくり支援事業】

地域資源であるヤマザクラが自生する里山等を保全する団体に対し、活動助成金や刈り払い機の替刃など消耗品を支給する事業

→平成29年度より事業を開始し、令和4年度は14団体に対し支援を行った



# ③ ヤマザクラの保全について

## Ⅱ. 里山の保全

桜川市の対応

### 【桜の里づくり支援事業】



【支援団体の活動のようす①↑】

【支援団体の活動のようす②↓】





# ③ヤマザクラの保全について

## Ⅲ.人材の育成

### 課題

10年、20年と継続的な保全活動を行う人材の育成・確保が課題  
→環境教育、啓発発動を行いながら、地域住民の里山保全への関心を高めていくよう努める

### 桜川市の対応

#### 【人材育成事業】

桜の保全に関わる人材を育成することを目的に、令和3年度より「桜守養成講座」を開講、一般社団法人桜川保勝会へ業務を委託

令和3年度 初級修了10名

令和4年度 初級修了13名、中級修了8名



# ③ヤマザクラの保全について

## Ⅲ.人材の育成

桜川市の対応

### 【人材育成事業】



【講座のようす①↑】

【講座のようす②↓】





### ③ヤマザクラの保全について

今後の予定

「2024全国さくらシンポジウムin桜川」

全国の桜の名所をもつ自治体で毎年開催されているシンポジウムで、  
2024年は桜川市で開催される

2024年は名勝「桜川」指定100周年、天然記念物「桜川のサクラ」  
指定50周年の記念すべき年でもある

現在の決定事項

開催日：令和6年4月4日、5日（木、金）

内容：■1日目（午後から）

桜の保全や活用などをテーマとしたシンポジウム

■2日目（午前から）

現地見学会

会場：桜川市大和ふれあいセンター「シトラス」ほか

参加募集：令和6年1月中旬ごろから募集を開始

市の広報紙やホームページ、募集チラシなどで周知する



# ④(仮称)上曽トンネルの開通に向けて

これまでの経緯

「(仮称)上曽トンネル整備事業」

- 上曽峠は幅員が狭く冬季には路面凍結等により通行止めが発生
- 地域住民の請願を受け、安全性の確保、利便性の向上を目指し、桜川市・石岡市が共同で事業に着手



上曽峠の状況



上曽峠の状況



# ④(仮称)上曽トンネルの開通に向けて

桜川市の対応

「(仮称)上曽トンネル整備事業」

- 地域住民の要請などを踏まえ、桜川市議会では平成28年第2回定例会において上曽トンネルの早期完成を求める決議が可決
- 令和2年度よりトンネル部の工事に着手(県へ委託)
- 令和5年5月に貫通し、令和7年度の開通を目指している



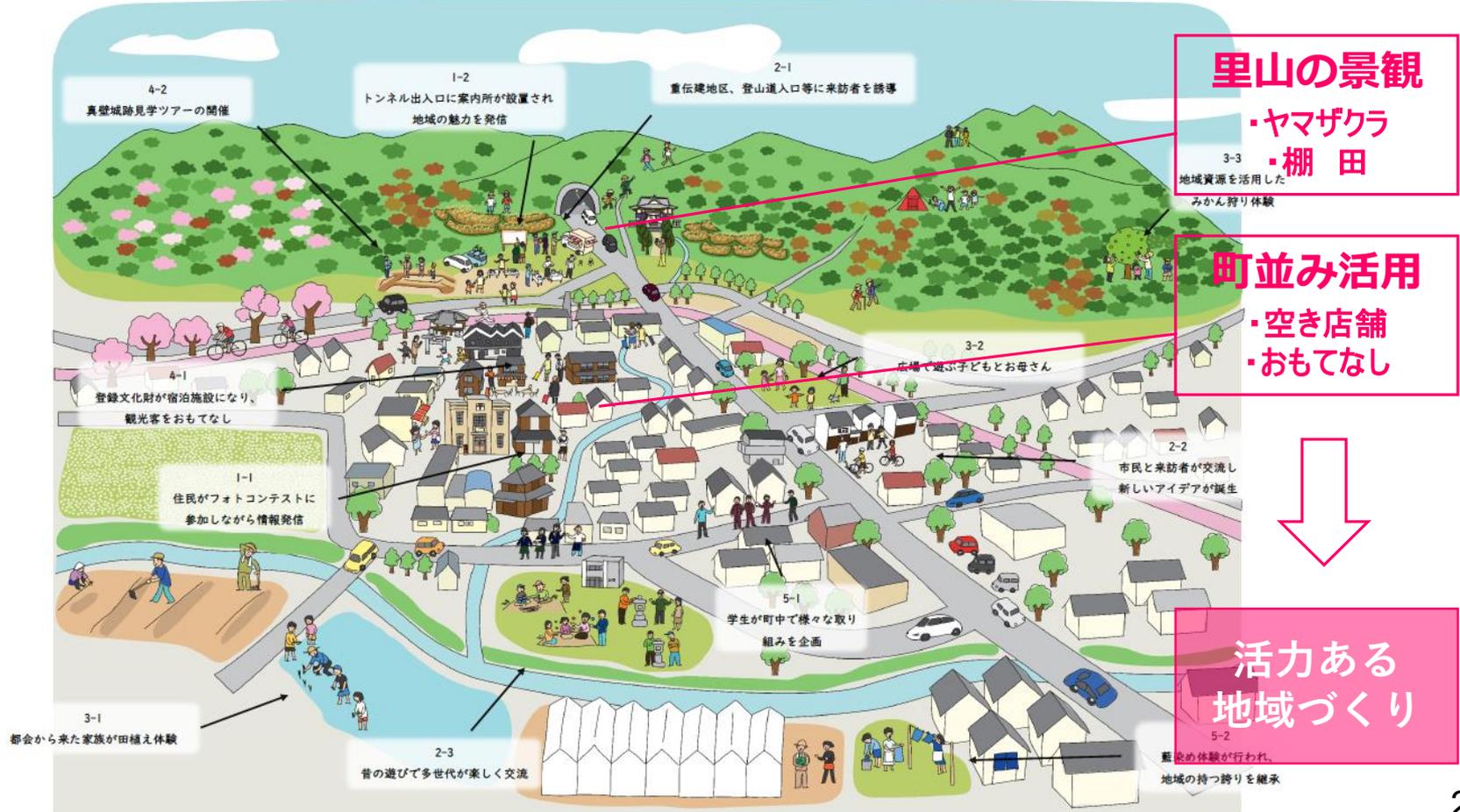


# ④(仮称)上曽トンネルの開通に向けて

現在の状況

## 「(仮称)上曽トンネル整備事業」

- 周辺地域の魅力を高め、地域の活性化を図るために、上曽トンネル周辺地域活性化基本構想を策定(令和5年3月)
- 今後は開通に向け、市民参画で構想の実現を目指していく





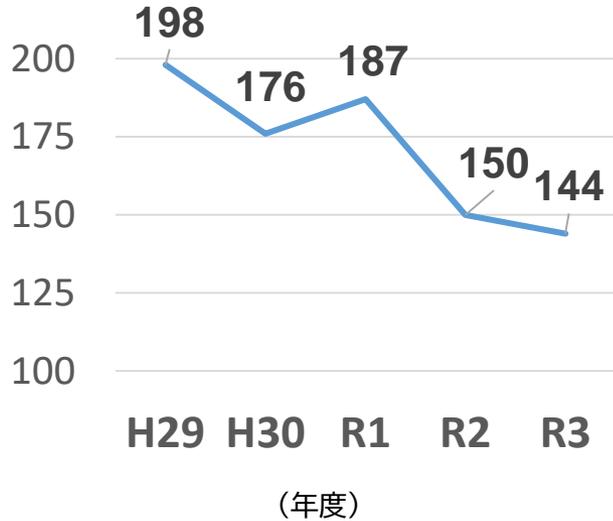
# ⑤学校の統合について

これまでの経緯

## 「学校再編の背景」

- 桜川市の出生数は年々減少傾向となり、多くの学校で一学年1クラスとなっている
- 一部の学校では、さらなる児童数の減少により複式学級が想定されています

### 出生数の推移



### 複式学級の発生が想定される学校

小学校名	複式学級が想定される年度
南飯田小学校	令和9年度
谷貝小学校	令和8年度
雨引小学校	令和11年度
樺穂小学校	令和12年度



# ⑤学校の統合について

これまでの経緯

## 「桃山学園の開校」

- 少子化に伴い、小中学校の再編統合を推進
- 真壁小・紫尾小学校区で8割を超える署名をいただき、平成30年に県西地域初の小中一貫教育を行う義務教育学校「桃山学園」を開校

年月	経過
平成27年1月	真壁小、紫尾小の早期統合に関する要望書受領
平成27年9月	桃山中学校区統合準備委員会設置
平成30年4月	桃山学園の開校





# ⑤学校の統合について

## 桜川市の対応

### 「統合の方針」(地区別の方針)

#### 真壁地区の統合方針

真壁地区全体を、ひとつの義務教育学校にまとめます。谷貝小学校は、令和8年度に2～3年生が複式学級になると想定されています。また、樺穂小学校も令和12年度に複式学級になる見込みです。

そのため、可能な限り早期に、桃山学園と桜川中学校区の統合を行います。

桃山学園+桜川中学校区(桜川中学校+谷貝小学校+樺穂小学校)

#### 岩瀬地区の統合方針(今後10年程度の構想)

岩瀬東中学校と岩瀬西中学校を統合し、新義務教育学校(小中一貫教育校)、又は新中学校を岩瀬総合体育館「ラスカ」周辺に設立。小学校は、既存の中学校校舎の活用を含めて検討します。

なお、検討にあたり新たな義務教育学校の設立や、現在の中学校校舎の利用など、市民の皆さまと十分に協議を進めていきます。

岩瀬東中学校+岩瀬西中学校 ⇒ 新たな義務教育学校または中学校

#### 大和地区の統合方針(今後10年程度の構想)

現在、人口減少対策として桜川筑西IC周辺地区のまちづくりを進めており、住宅地の分譲が行われます。市では、これらの進捗状況により、当該地区と現在の大和中学校区を含めた統合を検討していきます。

なお、検討にあたり新義務教育学校(小中一貫教育校)の設立や、現在の大和中学校の利用など、市民の皆さまと十分に協議を進めていきます。

※ 大和地区の統合方針は、急激な出生数の減少や桜川筑西IC 周辺地区のまちづくりの進捗状況から、第2次桜川市小中学校適正配置基本計画の基本的な統合案から変更し、将来に向けての構想としています。



# ⑥学びの拠点、図書館を含む複合施設の建設について

これまでの経緯

## 「図書館を含む複合施設建設」

- 桜川市には合併前の市町の3か所に分散し図書室等が設置されていたものの、人口規模にあった蔵書数には及ばない
- このため、全国で5市しかない「図書館を持たない市」の一つであり、市民の期待に十分に応えられない状況

図書室等	蔵書数
真壁図書館	38,023 冊
旧岩瀬公民館	16,230 冊
大和中央公民館	12,152 冊

(令和4年度末時点)



図書室

※参考:人口規模を勘案した必要な蔵書数は約18万冊(図書館協会の推奨数)



## ⑥学びの拠点、図書館を含む複合施設の建設について

桜川市の対応

### 「図書館を含む複合施設建設」

- 市民からの請願や市議会の文教厚生常任委員会での採択を踏まえ、市では令和2年12月に基本構想を策定
- 岩瀬中央公民館の改築の必要性が表面化したことを受け、図書館と公民館という2つの生涯学習施設を合わせることによる高機能化・コスト縮減を図る
- さらに新庁舎建設に伴い岩瀬の支所機能を統合し複合施設とした

年月	内容
平成29年8月	桜川市議会に「図書館建設に関する請願書」が提出される
平成29年11月	文教厚生常任委員会にて趣旨採択
平成29年12月	市議会議員から図書館建設に対して一般質問で要望
令和2年12月	「桜川市新図書館建設基本構想」策定
令和4年3月	基本設計完了
令和5年3月	令和5年第1回定例議会において承認を得て建設工事請負契約締結



# ⑥ 学びの拠点、図書館を含む複合施設の建設について

現在の状況

## 「図書館を含む複合施設建設」

- ・ 4月下旬に施工者主催の安全祈願祭を実施し、工事に着手
- ・ 令和6年夏頃の工事を完成させ、令和6年11月の図書館の開館を目指し、運営を行う指定管理者選定等の準備を進めている

### 一般開架閲覧室



- ・ 書架の配置。どこから本が見えるような、楽しい配置
- ・ 書架間の閲覧スペース
- ・ 壁側を高書架、窓側はオープンな書架として閲覧環境を創出

### 多様な活動が可能な1F「クリエイティブハブ」



- ・ ブラウジング
- ・ セルフカフェによる飲食可能なスペース
- ・ 講演会、サークル活動
- ・ コワーキング
- ・ 地域の食に関連したイベント



# ⑥ 学びの拠点、図書館を含む複合施設の建設について

現在の状況

## 「図書館を含む複合施設建設」

- 4月下旬に施工者主催の安全祈願祭を実施し、工事に着手
- 令和6年夏頃の工事を完成させ、令和6年11月の図書館の開館を目指し、運営を行う指定管理者選定等の準備を進めている



令和5年8月現在 基礎工事



# ⑥ 学びの拠点、図書館を含む複合施設の建設について

現在の状況

## 「図書館を含む複合施設建設」

- ・ 9月末に指定管理候補者を公募し、候補者(案)を選定
- ・ 12月に市議会の議決を経て、指定管理者として決定する予定



- ◎ 運営経験豊富な事業者運営に運営管理を委託し、充実したサービスを提供
  - ① ICT機器の活用による先進的な公民館・図書館運営
  - ② キッズスペースや託児サービスの展開による子育て世代が集う場の創出
  - ③ 事業者のノウハウを活かした自主事業の展開 など

# ⑥ 学びの拠点、図書館を含む複合施設の建設について



現在の状況

## 「図書館を含む複合施設建設」

- ・ 9月末実施の指定管理者公募にて、開館に向けた準備計画の提案を求めた
- ・ 令和6年度11月頃の開館に向けて必要となる様々な準備業務を指定管理候補者と検討・決定していく

## 開館までに必要な準備の例

- ・ 開館時蔵書数約8万冊のうち、新規調達分約5万冊の選書、旧公民館の蔵書約3万冊の移転、蔵書の配架など、**蔵書の準備に関すること**
- ・ 運営スタッフの募集や研修等、**人員配置に関すること**
- ・ 運営に必要な備品等の選定、指定管理者の提案内容実現のため必要となる機材など、**物品・機材の導入に関すること**
- ・ 図書館運営に関する様々な**ルール作り**

など





# ⑦防災対策について

これまでの経緯

## 「地域防災対策事業」

- 災害の発生が予想、もしくは災害が発生した場合、迅速且つ的確な対応がとれるよう訓練をはじめとした各種事業を行っている。

令和元年台風19号



(冠水被害：羽田地区)

令和5年台風2号・梅雨前線に伴う大雨



(災害対策本部の状況)



(倒木被害：磯部地区)



# ⑦防災対策について

桜川市の対応

今後の予定

「地域防災対策事業」

- 「地区防災組織による避難訓練の推進」や「防災意識の向上を目的とした防災出前授業」を行っている。
- 大和地区と真壁地区の「洪水ハザードマップ」作成した。岩瀬地区については、県に早期の調査と区域指定を要望しており、早期の作成を目指している。



地区防災組織避難訓練



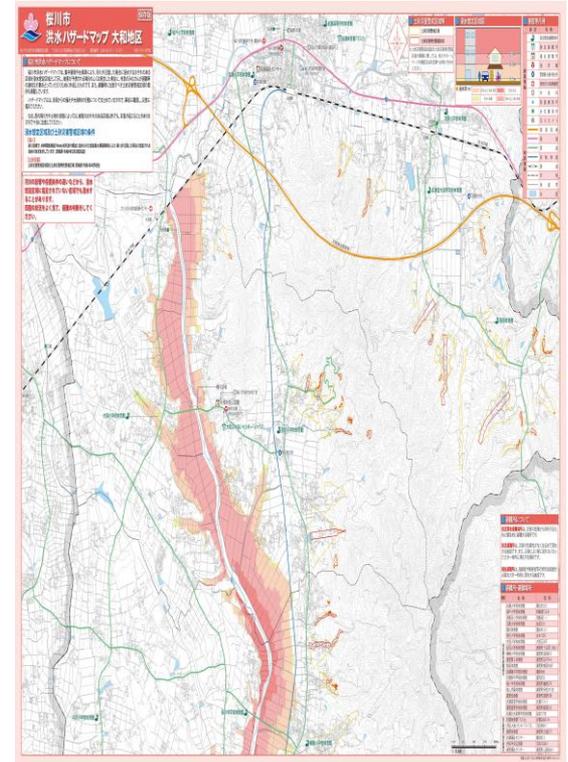
防災出前授業



防災ボランティア育成



消防団による訓練





# ⑧新庁舎建設について

庁舎の課題

## 「桜川市新庁舎建設事業」

- 災害対策本部が設置される県内自治体の庁舎では、唯一、耐震対策が行われていない（大子町、下妻市は新庁舎建設で解消）
- 市庁舎は防災対策の要となることから、市民の安全・安心を確保するうえでも早期の解決が望まれている



平成28年の熊本地震で被災し、使用ができなくなった宇土市役所（消防庁資料より）



宇土市の災害対策本部は屋外のテントに設置（消防庁資料より）



# ⑧新庁舎建設について

庁舎の課題

## 「桜川市新庁舎建設事業」

- 岩瀬、大和、真壁庁舎は耐用年数を超過している建物が多く、耐震基準も満たしていない

更新対象施設名称	棟名称	建築年	経過年数 耐用年数 超過	耐震性能 基準0.6以上 庁舎0.9以上
桜川市役所岩瀬庁舎	第1庁舎	S36	62年目	0.47
	第2庁舎	S55	43年目	0.75
桜川市役所大和庁舎	東庁舎	H5	30年目	新耐震基準
	西庁舎	S47	51年目	0.44
	車庫I	S46	52年目	-
	車庫兼物置3	S47	51年目	-
	車庫B棟	S46	52年目	-
	車庫	H4	31年目	-
桜川市役所真壁庁舎	庁舎	S49	49年目	0.50
	車庫	S49	49年目	-



# ⑧新庁舎建設について

庁舎の課題

## 「桜川市新庁舎建設事業」

- 大和、真壁、岩瀬庁舎はいずれも施設の老朽化が進行し、バリアフリーにも未対応であり、市民サービスの利便性が低い



出入口柱の老朽化ひび割れ



雨漏りによる天井雨染み



# ⑧新庁舎建設について

庁舎の課題

## 「桜川市新庁舎建設事業」

- 大和、真壁、岩瀬庁舎はいずれも施設の老朽化が進行し、バリアフリーにも未対応であり、市民サービスの利便性が低い



梁に著しいクラック・浮き



梁の欠損箇所、錆び汁



# ⑧新庁舎建設について

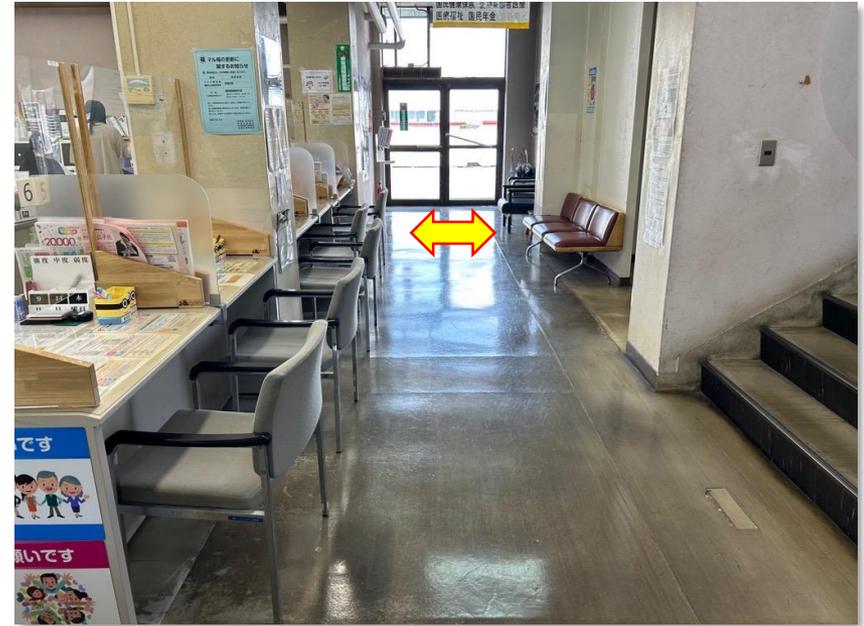
庁舎の課題

## 「桜川市新庁舎建設事業」

- 大和、真壁、岩瀬庁舎はいずれも施設の老朽化が進行し、バリアフリーにも未対応であり、市民サービスの利便性が低い



上階への移動手段の階段  
エレベーターの未設置



狭い待合スペース



# ⑧新庁舎建設について

桜川市の対応

## 「桜川市新庁舎建設事業」

- 新庁舎の建設方針を具体化するため平成29年度に市議会及び各種団体等の代表者を委員とした委員会を設置
- 構想策定の重要な5項目について諮問し、平成30年9月に「桜川市新庁舎建設検討に係る諮問事項に対する答申」を受けた
- この答申に沿って、計画・設計を進めている

年 月	検討事項等
平成29年30年	桜川市新庁舎建設検討委員会(全6回)
平成31年2月	「桜川市新庁舎建設基本構想」策定
令和3年11月	「桜川市新庁舎建設基本計画」策定
令和5年2月	「桜川市新庁舎基本設計」完了
令和5年2月～	「桜川市新庁舎実施設計」 実施中



# ⑧新庁舎建設について

桜川市の対応

## 「桜川市新庁舎建設事業」

- ・ 公共施設の更新に伴う財政負担の軽減や、効率化・平準化を目的として、令和3年度に「桜川市公共施設個別施設計画」を策定
- ・ 68施設に及ぶ今後30年間の施設更新費用について、耐震性能や利用状況から総合的にシミュレーションし、施設の集約化や計画的な保全により将来負担の縮減を図る

## 整備の必要性

庁舎の検証結果は、新庁舎建設により、老朽化や分庁方式の非効率率が解消され、維持管理費が軽減される。

### 防災拠点として機能

- ・ 健全な庁舎により頻発する激甚災害対策の充実を図る

### 市民サービスの向上

- ・ DXを活用した書かないワンストップ窓口
- ・ 市民協働スペース

### 将来の財政負担軽減

- ・ 省エネルギー設備による維持管理コストの軽減
- ・ 合併特例債を活用して将来の財政負担を軽減
- ・ →30.1億円の交付税措置 期限:令和9年度まで残り僅か



# ⑧新庁舎建設について

桜川市の対応

## 「桜川市新庁舎建設事業」

### ・ 建設費の軽減対策

例Ⅰ. 面積の削減 → 既存東庁舎利用、書庫/議会エリア/会議室  
打合せスペース/執務環境の効率化

### ● 茨城県内の庁舎と、新庁舎との面積比較

市町村	職員数	職員1人あたりの面積	竣工年
茨城県内(8市平均)	225人~1298人	30.28㎡/人 ※①	H28~R5
桜川市	368人	25.44㎡/人	—

### ● 面積の削減効果

項目	面積	備考
※① 茨城県内平均面積 × 桜川市職員数	11,145㎡	①30.28㎡/人×368人
実施設計時	9,363㎡	新庁舎+東庁舎+渡り廊下

平均との差  $9,363\text{㎡} - 11,145\text{㎡} = \mathbf{\Delta 1,782\text{㎡}}$



# ⑧新庁舎建設について

現在の状況

## 「桜川市新庁舎建設事業」

- 現在、新庁舎建設に先立ち、第5駐車場の整備に着手
- 新庁舎の実施設計を11月めどに完了し、年内に建設工事の発注手続きを開始、令和7年12月の完成を目指す予定である
- 真壁支所（新設）についても設計に着手

### 新庁舎の開庁 スケジュール

令和8年1月  
・新庁舎（新設）

令和8年1月  
・真壁支所（新設）

令和8年1月  
・岩瀬支所（建設中）  
※図書館は先行して開館

\*スケジュールは、現時点のものであり、変更となる場合があります。



新庁舎のイメージ



# ⑨桜川筑西IC周辺地区の開発について

これまでの経緯

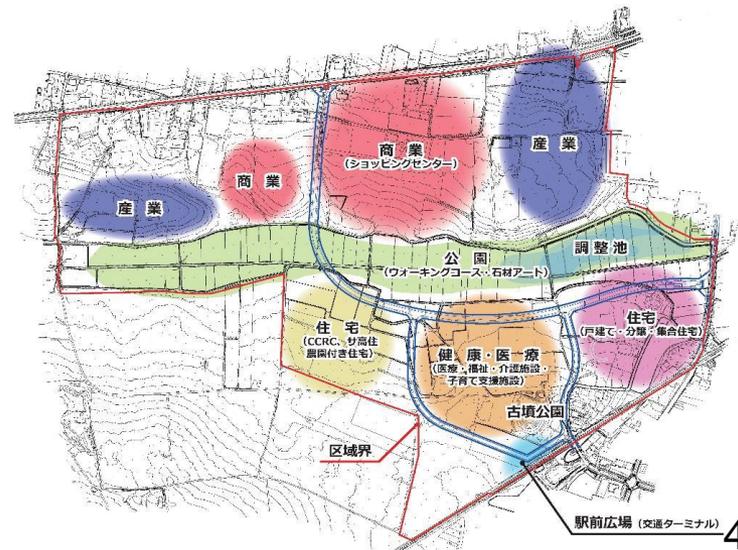
## 「桜川筑西IC周辺地区における都市拠点の形成」

- 桜川筑西インターチェンジ周辺に新たな都市拠点を形成し、市全体の活性化を図るため、魅力あるまちづくりを推進する。

年月	主な経緯
平成20年4月	北関東自動車道 桜川筑西インターチェンジ開通
平成21年3月	桜川筑西インターチェンジ周辺都市整備構想策定
平成25年6月	桜川筑西インターチェンジ周辺地区整備計画策定
平成28年3月	住民代表を交えた検討委員会がまちづくり方針及び土地利用構想図(下)決定
平成30年10月	さくらがわ地域医療センター開院
令和 2年10月	地区内幹線道路開通
令和 4年 7月	大和駅北公園遊具広場オープン

### まちづくり方針

- i) 病院を核に、地域資源を活用し、ここでしか体験することのできない多様なサービス事業を提供
- ii) 多世代交流の仕掛けとなるスポーツ・健康・運動・介護・子育て・教育・住宅などの機能を構築
- iii) まちの機能をストレスなく利用するための多様な交通機能の導入と歩行者優先のまちづくり





# ⑨桜川筑西IC周辺地区の開発について

桜川市の対応

「都市施設の計画的かつ段階的な整備」

- 地区内では、新市立病院「さくらがわ地域医療センター」の整備をはじめ、道路、公園等のインフラ整備が進められている。

さくらがわ地域医療センター



道路整備



公園整備（遊具広場）



公園整備（トイレ）





# ⑨桜川筑西IC周辺地区の開発について

現在の状況

## 「業務代行方式による住宅地造成事業の実施」

- 住宅地造成事業（第Ⅰ工区）については、今年5月に土地開発公社が民間の業務代行者と契約を締結し、**現在、造成販売中。**
- その他の未整備区域についても、市と土地開発業者が連携し、企業誘致等の取組を進めていく。



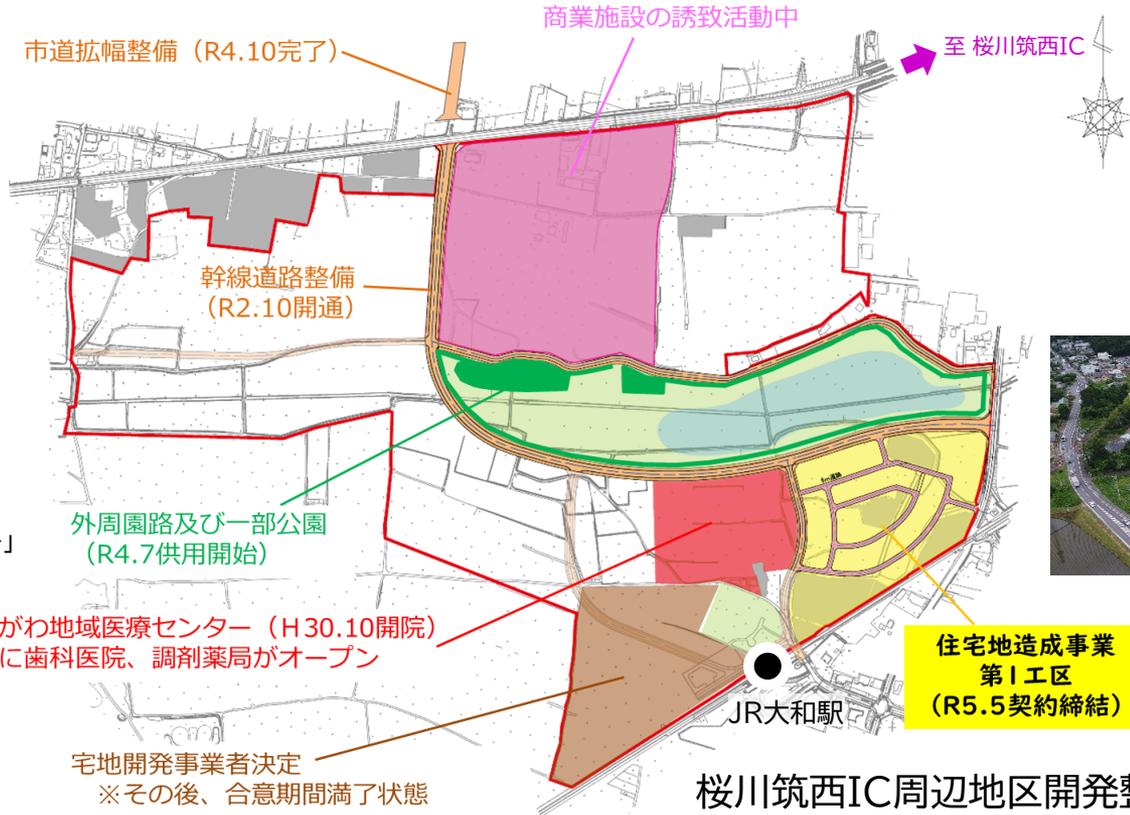
大和駅北公園



市立病院「さくらがわ地域医療センター」



JR大和駅



桜川筑西 IC



住宅地造成エリア全景

桜川筑西IC周辺地区開発整備事業  
開発区域図

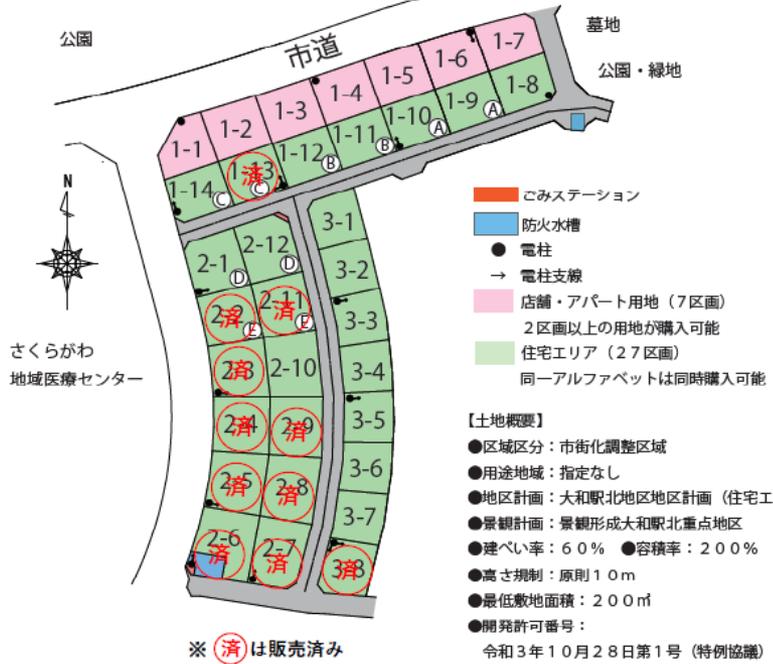


# ⑨桜川筑西IC周辺地区の開発について

## 現在の状況

## 「分譲住宅地(第1工区)の販売状況」

- 分譲住宅地(第1工区)34区画のうち、27区画を自己用住宅用地、7区画を店舗・アパート用地として販売中。
- 自己用住宅用地27区画については、今年9月10日(日)に抽選会を開催し、**計11区画が売約済**。
- 店舗・アパート用地については、プロポーザルの実施に向けて応募者と調整中。



用途	自己用住宅用地	店舗・アパート用地
区画数	27区画	7区画
販売価格	401.57万円～601.16万円 ※坪単価:6.5万円～7万円	507.28万円～597.44万円 ※坪単価:8万円
敷地面積	204.25㎡～283.93㎡ (61.78坪～85.88坪)	209.62㎡～246.90㎡ (63.41坪～74.68坪)
販売条件	一戸建ての自己用住宅を建築すること等	・住宅地の利便性の向上に資する店舗の建築 ・街区景観と調和したアパートの建築等
販売方法	公募(抽選会)	公募(プロポーザル方式)



# ⑨桜川筑西IC周辺地区の開発について

現在の状況

## 「官民包括連携協定による商業施設誘致」

- 長方地区準工業地域内における企業誘致に当たり、今年8月4日付で民間の開発事業者と商業施設開発の推進に関する包括連携協定を締結しました。
- 協定者は、市、開発事業者「日計商事株式会社」及び「(仮称)桜川ショッピングセンター出店テナント連絡調整会議」代表「株式会社ベイシア」の3者です。
- この協定では、商業施設開発による地域振興及び経済波及効果の最大化を図るため、相互に連携・協力することを定めています。

商業施設イメージ



協定者とその関係者の皆様



# ⑩市の財政状況、ふるさと納税の取り組みについて

- 「財政健全化判断比率」の4つの指標は基準をすべて下回っており、健全な状況です。

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率※ <sup>1</sup>	将来負担比率※ <sup>2</sup>
桜川市 (令和4年度)	なし	なし	7.7	31.7
早期健全化基準 (イエローカード)	13.08	18.08	25.0	350.0
財政再生基準 (レッドカード)	20.0	30.0	35.0	—

●※<sup>1</sup>: 実質公債費比率 一般会計・特別会計・公営企業会計のほか一部事務組合などが負担する元利償還金を市の「標準財政規模(※<sup>3</sup>)」で除した割合

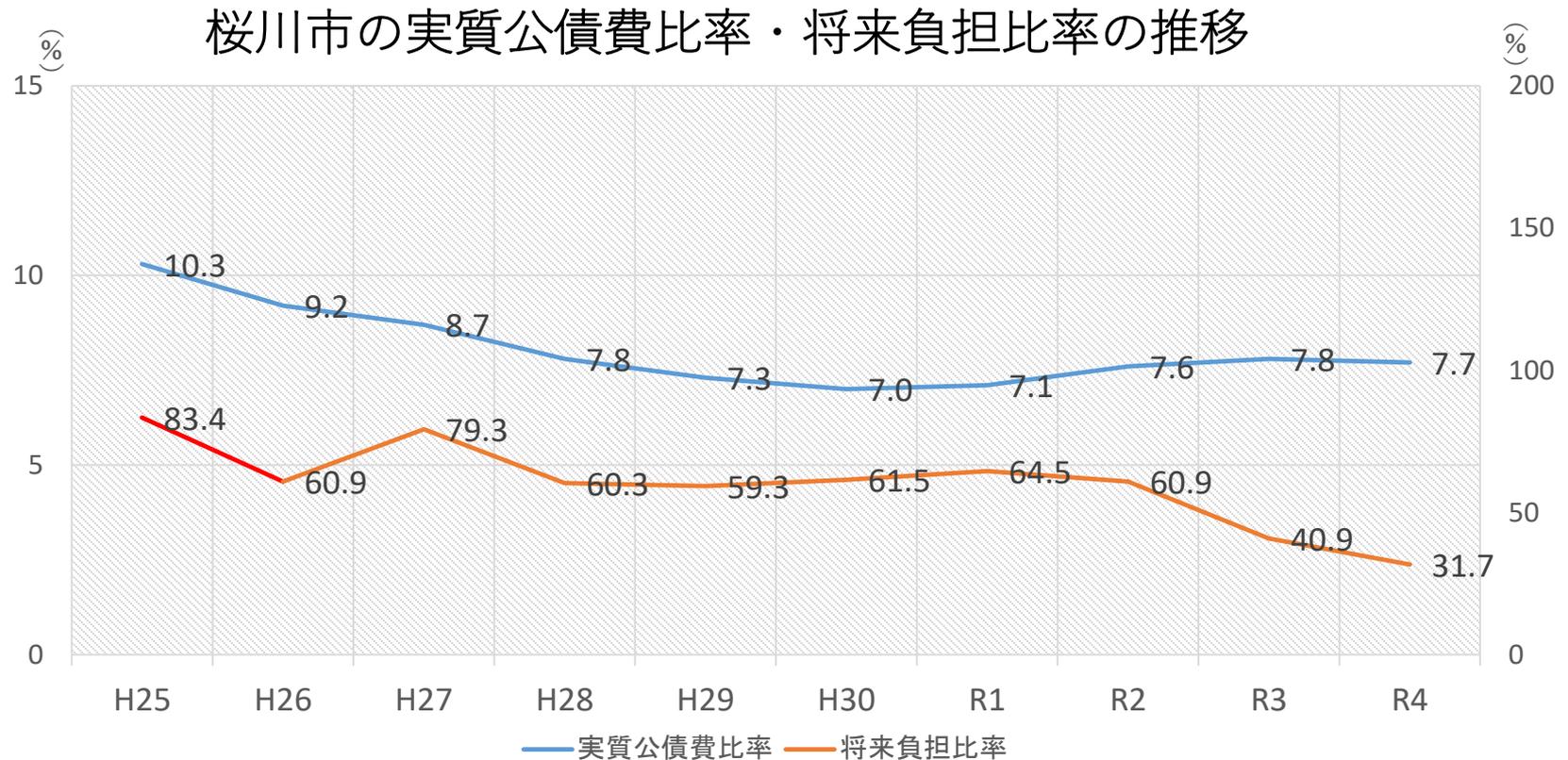
●※<sup>2</sup>: 将来負担比率 一般会計が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模(※<sup>3</sup>)に対する割合

(※<sup>3</sup>)標準財政規模: 地方自治体の標準的な状態で通常収入されるであろう經常的な一般財源の規模

# ⑩市の財政状況、ふるさと納税の取り組みについて



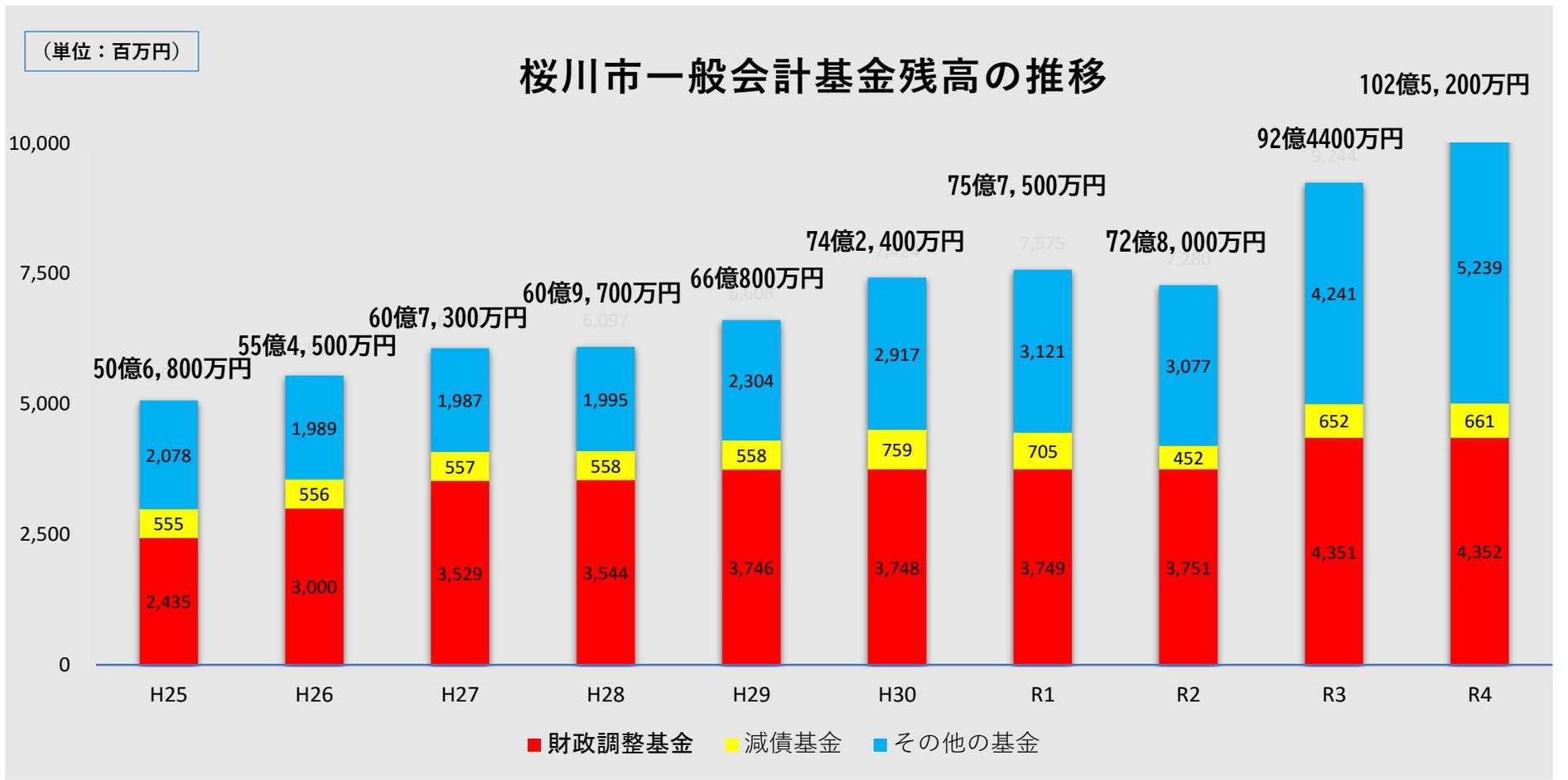
- 「実質公債費比率」で、25%を超えると財政健全化団体、35%を超えると財政再生団体になります→ (7.7%)
- 「将来負担比率」は、350%を超えると「財政健全化団体」になります。(破綻した自治体は1,000%を超過) → (31.7%)





# ⑩市の財政状況、ふるさと納税の取り組みについて

- 令和4年度時点で、基金総額は平成25年度の2倍となる102億円となっている。今後は公共施設の整備等に活用していく。





# ⑩市の財政状況、ふるさと納税の取り組みについて

- ふるさと納税の寄付金の増収に向け、取り組みを強化した結果、令和4年度は対前年比5倍となる、1億4千万の寄付をうけた
- 令和5年度は取り組みをさらに進め、寄付額3億円を目指す
- 返礼品の開発にあたっては、地域商社クラセルと連携

## ふるさと応援寄附金

